

# 「景観から考える北海道の食・農・観光」

## ～ 景観法制定10年と景観を活かした地域活性化 ～



「北海道の景観」は、都市空間で形成される景観だけではなく、北海道特有の美しく豊かな自然環境や気候風土といった特徴的な地理的資源に加え、人の営みの中で形づくられた広大な田園風景などが融合したカントリーサイドの景観とともに形成されています。

景観は、地域イメージと関連づけられ、相乗効果を発揮して、食・観光など地域産業の「ブランド化」を可能にします。

特に、自然景観・田園景観に強みを持つ北海道の観光産業は、食にかかわる産業を始め、地域の産業や雇用の創出などへの波及効果が大きく、地域経済を先導する役割が期待されています。

このためには、道内に生活し活動する一人ひとりが北海道の魅力ある景観形成の重要性に「気づき」、広大な北海道の面積の多くを占める「カントリーサイド」の景観形成を活かした魅力ある地域づくり、個性豊かな観光地づくりを「点から線、線から面」へ「つなげる」ことが重要です。

今年、景観法公布から「10周年」を迎える節目の年に当たります。

北海道内でも景観に関する取組が着実に進展してきた一方、景観形成がもたらす効果に対する認識が浸透しているとは必ずしも言えない状況が見受けられます。

今回の景観シンポジウムは、景観を持続的に「食・農」や「観光・まちづくり」へ展開していくために、今、北海道の景観に何が期待されているか、主体となる市民・企業・行政がそれぞれの役割のもとどのように結びつきを強めていくか、人材をいかに育てていくか、景観を活用した取組を広域的につなげていくか等、様々な視点から議論することを目的に開催します。

平成 26年 10月 15日 (水) 14:30 – 17:30 (受付開始 13:40)

会場： かでる2・7 「かでるホール」 札幌市中央区北2条西7丁目

定員： 500名 (入場無料)

- プログラム：
- 1 基調報告 「景観法成立以降の景観行政の歩み」  
国土交通省 都市局 公園緑地・景観課長 柳野 良明氏
  - 2 話題提供 北海道大学工学部 建築都市コース准教授 坂井 文氏
  - 3 事例紹介、パネルディスカッション

パネリスト： 大西 希氏 (鶴雅グループ取締役)  
(50音順) 大黒 宏氏 (ノースプレーンファーム株代表取締役会長)  
林 克彦氏 (北海道ガーデン協議会会長)  
松岡 市郎氏 (北海道東川町長)  
ロス・フィンドレー氏 (株NACニセコアドベンチャーセンター代表取締役)

コーディネーター： 坂井 文氏

申込： 件名を「景観シンポジウム参加希望」とし、  
必要事項(氏名、会社名・団体名、連絡先(電話番号又はメールアドレス))を記載の上、  
下記の宛先にメール又はFAXにより、お申込みください。 【先着順、締切 10月8日(水)】

### 【申込み・問い合わせ先】

北海道開発局 事業振興部 都市住宅課 (担当：多積(たつみ)) 電話：011-709-2311 (内線 5867)

FAX：011-709-2800 E-mail：machidukuri@hkd.mlit.go.jp

主催：北海道開発局、北海道、(独)土木研究所寒地土木研究所